

○混凝土中ニ挿置シタル鋼鐵ノ保存ニ關スル實例

たーなー建築會社が千九百二年じ
 ぬーびー、アング會社 (J. B. King & Co.) ノ爲メニすてーつん島にゆう、ぶらいそん (New Brighton,
 Staten Island) ニ築造シタル「鐵筋混凝土造平家ヲ此程必要アリテ引倒シタルガ此建物ノ安定度
 ニ關スル調査ノ便宜ヲ最モ多ク有シタル」ハ前記ノ建築會社長「つちしい、たーなー氏 (H. C.
 Turner) ナリ而シテ氏ノ作成シタル次ノ記事ニ據レバ荷重ノ狀況普通ニシテ建築ノ際適當ノ
 注意拂ハレタリトセバ混凝土中ニ挿入サレタル鐵筋ノ決シテ錆ビルコトナキ證トナスニ足
 ルベキモノアルガ如シ。

此建物ノ基礎ハ杭地形ニシテ杭ハ總テ平均潮位ノ處ニテ切去ラレタリ而シテ壁脚ハ乃チ
 是等ノ杭頭ヲ繞リ且ツ其上部ニ置カレタル鐵筋混凝土ヨリ成レリ壁ハぐれーぶらうん (Grade
 line) 迄厚サ九吋、ぐれーぶらうんヨリ屋根迄五吋ニシテ壁ノ高サハ凡十五呎アリ、屋根ハ鐵筋
 混凝土ノ梁ヨリ成リ其薄版ハ厚サ二吋半ニテ心一呎毎ニ置カレタル螺旋狀鋼鐵桿直徑
 四分一吋ヲ鐵筋トシタルモノナリ又壁ハ數多ノ方柱ニヨリテ強メラレ壁及ビ方柱共ニ螺旋
 狀鋼鐵桿ノ鐵筋ヲ有ス、内部ノ柱ハ斷面十一吋ノ方形ニシテ其鐵筋ハ四條ノ螺旋狀鋼鐵桿直
 徑八分三吋トシ心二呎半ノ間隔ニテ四分一吋鋼鐵圈ニテ結合シタルモノナリ
 建物ノ取毀タレタル部分ハ横三十呎縱六十呎ニシテ其跡ニ五階家ヲ建テントスルモノナリ
 此取壊シノ際屋根ノ混凝土非常ニ硬クシテ手斧及ビ鶴嘴位ニテハ其効ナカリシヲ以テ終ニ
 十六封度ノ大槌ヲ用キテ薄版上幾ヶ所ニモ孔ヲ穿チ斯クテ大孔一度ニ穿タル、ニ及ンデハ
 其後ノ破壞工事頗ル容易ニ進行シタリ

壁ハ滑車ヲ用キテ引倒シタルニ彈力ニ富メルヲ確認セリ即チ是等ノ壁ハ壁脚中ニ置カレタル結合桿ニヨリテ壁脚ニ固着シ倒ル、以前垂直線ヨリ少クモ二十度ニ傾クモ尙毀損サレザリキ又柱ハ頂上ニ於テ切離サレタル後嫩樹ニテモ折ルガ如ク之レヲ曲ゲ遂ニ直立鐵桿ノ折ル、ニ至リテ止ム、斯クテ是等ノ鐵桿ノ折ル、處ハ總テ壁脚ト柱ノ接續點ナリシガ無論斯ル現象ハ柱ノ破碎セズシテ倒レシトキノコトナリ

鐵筋用鋼鐵ハ彼結合用鐵圈^{十、五、十}ヲ表面以下四分三吋以内ニ接近セシメタル處數ヶ所ヲ除キ其他ハ總テ完全ニ保存セラル、ヲ見タリ唯前記ノ如ク表面以下四分三吋以内ノ處ニ接近セル場合ニハ稍腐蝕ノ形跡ヲ存シタリ之レヲ以テ見ルニ表面ヨリ少クモ四分三吋以上ノ處ニ鐵筋用鋼鐵ヲ押置スル必要アルガ如シ、壁脚ハ毎日二度宛潮水ヲ被リタレドモ混凝土極メテ堅固ニシテ塩水ノ作用ニ由ル何等ノ弱所ヲモ認ムルコトナカリキ而シテ壁脚中ノ鋼鐵桿ハ被覆混凝土ノ厚サ僅カニ四分三吋ノ場合ト雖ドモ完全ニ保存セラル、ヲ見タリ

(Engineering News, January 16, '08)

(〇、〇)

○港灣修築費及營業費

ふるまゝふる、こるせる氏ハ佛國ノ技師びやゝる氏ニ囑托シ港灣修築費及營業費等ノ調査ヲ爲セリ此ノ如キ事項ハ其計算ノ方法各港各異ナレルヲ以テ一表ニ之レヲ計上スルコトハ頗ル困難ノコトトス左ハ同氏ノ取調ノ結果ヲ航海會議ニ報告セシモノヨリ拔載セリ

港名

修築費

年度マデ

London

三、七、二、七五

出入船登簿噸數

年度マデ一年間

二、五、八、六七

總收入

五、六、八九

營業費

三、一、六四

司上收入ニ對スル割合

五、六、六一